

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かみふうせん		
○保護者評価実施期間	令和7年年1月13日 ～ 令和7年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	健康な生活を送るために必要なスキルを学んだり練習したりしています。	・スケジュールを掲示し、1日の活動の流れを見通せるようにしています。時間になったら活動が切り替わることを体感してもらい、切り替えができるようにしています。 ・掃除や調理の大切さを学んだりスキルを身に付けることを目的に、「せいかつ」の時間を設けています。 ・「バレーポイント」というポイントを導入しています。ポイントを自分で管理したり景品とポイントを交換するという疑似買い物体験を行っています。	・バレーポイントを使って、自分の目標を明確にさせ、自分のこととして自主的、意欲的に取り組めるようにしていきます。
2	見る・聞く・推論などの認知能力をうまく使い、適切な行動ができるように支援しています。	・「がくしゅう」の時間にコグトレ等を用い、見る・聞く・推論するといった認知面のトレーニングを行い、個人の苦手なアプローチしています。 ・「SST」や「じぶんタイム」の時間に、自身の認知(ものごとの捉え方)に気づき、適切な行動をとることができるように主に対話を用いたアプローチしています。 ・トークンエコノミー法として「バレーポイント」を導入しています。課題や目標を達成することでポイントがもらえることを通し、適切な行動が増えることを目的としています。	・支援計画に挙げている一人一人の課題を、さらに具体化し自分の成長が見えるようにしていきます。
3	言葉をつかったコミュニケーションが円滑に行えるように支援しています。	・言葉を用いたゲームやクイズ、話し合いや発表などを通して、語彙を増やしたり言葉でのやり取りができるように「ことば」の時間を設けています。 ・「SST」の時間に、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを身に付けるための学習や、小グループでの会話やロールプレイなどを行っています。	・その子に応じた個別のトレーニング方法を考える必要があります。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の数が日によって不足しているところあります。	・人手不足	・求人の強化
2	利用者の送迎をすべての子にすることができません。	・コマ制にしているため。すべてに対応することができません	・送迎専門の職員の求人が必要です。
3	外部研修などに参加できていないので、職員個人のスキルを高め切れていません。	・研修会の情報を把握していません。 ・職員がぎりぎりのため、外部の研修に出る余裕がありません。	・外部研修会の情報を集めます。 ・職員の求人

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスかみふうせん

公表日 令和7年2月28日

利用児童数 38人

回収数 38人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	87	9	0	4		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	74	4	0	22		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	91	0	0	9		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100	0	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	91	0	0	9		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	0	14	72	そのような機会は求めている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	96	4	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	39	17	5	39	療育を通して家族も大変助けられている。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	92	4	0	4		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	82	9	0	9		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	4	26	52	夏休みにあるが、平日のため参加できない。	保護者同士の交流は求められていないので現状の対応をしていく。 きょうだいに対しては、作品展等やお迎え時に交流できるように今後もしていきたい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	64	0	0	36	苦情するようなものはない。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	87	4	0	9		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	96	0	0	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	96	0	0	4		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	73	0	0	27		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	86	0	0	14		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	96	4	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	96	4	0	0		

事業所名 放課後等デイサービスかみふうせん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	十分なスペースは確保できている。	現状維持
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	0	6	日によって時間帯によって不足している。対応が必要な子に手が掛けられないこともある。今の人数では、日々の業務をこなすことで精いっぱいのところがある。	職員増員の予定
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	学習・多目的活動のスペース、SSTの部屋等に分かれている。 面談室と休憩時おやつを食べる場所が一緒である。改善する必要がある。	面談前に片付けをしっかりとしておく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日整理整頓、清掃を実施している。	今後も継続する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	環境になっている。	今後も継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	ミーティングで職員の意見交換を行い、臨機応変に対応している。 構造化して、もう少ししっかりと取り組みたい。	今後も継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	つなげている。	今後も継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	勤務開始と終了時にミーティングを持っており、その時に、その日のことや気付いたこと、行事の振り返りなどをしている。	今後も継続する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	現在は行っていない。 特別支援の専門家などにスパーヴァイズしてほしい	今後専門家にスパーヴァイズを要請する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	各職員が担当して、毎月テーマをもって研修している。外部の研修には参加できていない。	所内は今後も継続する。外部研修への参加を積極的に進める。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	適切にされている。	今後も継続する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	事前の保護者のモニタリングやお迎え時、ハグ等での保護者との連携をもとに、ケース会議や支援計画会議で検討を行っている。子どもも入った4者面談では、正直な話が出来にくいのではないかと。	今後も継続する。終了後、保護者の要望を聞き、子ども抜きでの懇談も入れる。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	個別支援計画会議で、児発管の原案をもとに、みんなの意見を出し合って協議している。してはいるが、実際にどれくらい共通理解がされているか疑問を感じる。	作成に当たっては、今後も継続する。 1か月に一度や随時支援計画を確認するように習慣づける。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	個別支援計画を、いつでもどの職員も見れるようにしており、随時確認して進めている。 面談前にすべての担当職員に共有されていないので、説明時に戸惑うことがある。	今後も継続する。 面談前には再度共有を図る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	5	個別の観察記録はしているが、フォーマルなアセスメントはしていない。	定期的にフォーマルアセスメントを来ない、随時子どもの状況でインフォーマルなアセスメントも行っていく。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	家族支援、地域支援も考慮して作成している。	今後も継続する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	担当者が提案し、みんなで協議し、共通理解をして進めている。毎日のミーティングや評価会議で行っている。	今後も継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	毎日いろいろなゲーム的な活動を工夫している。固定を好む児童もいる。何度か同じプログラムをする方が良い場合もある。オリジナルのプログラムも多い。	今後も継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	学習は個別、他の活動はグループでしているが、その子の状況に応じて個別に活動することもある。主任任せになっている点は改善すべきである	今後も継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎日、開始前にミーティングを行い、前日の気になることや、本日の活動内容について協議し、役割分担や共通理解を行っている。かなり細かく話し合っている。	今後も継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	勤務終了前に、ミーティングをおこない、本日の振り返りや気になる利用者の共通理解をはかっている。もう少し時間があると助かる。	今よりも少し早めにミーティングを行い、十分な時間を取っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	ハグに活動の記録や気になることを記録している。その記録をもとに、支援内容の検証を行っている。	今後も継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	半年に一度保護者、本人のモニタリングを実施して見直しをすると共に、3か月に一度支援内容の評価も行っている。	今後も継続する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	4つの基本を組み合わせ支援を行っている。	今後も継続する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2	4	集団活動では、したくない時は、無理にさせないようにしている。その代わりに何をするかを自分で決めさせている。	さらに子どもが自己選択できるように支援方法を考えていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	ハグの記録や職員からの報告や児発管の観察等を通して、本人の様子を掴んだうえで、児発管が参加している。	今後も継続する。さらに当日のミーティングで、近況を確認する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	0	6	あまり行えていない。	それぞれの子に応じて支援の連携を広げていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	必要に応じてはできているが、どの子にもはできていない。	学校との連携は積極的に進めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	6	あまり行えていない。	新1年生や特別支援学校への入学時の時は、よく連携を図り情報を共有していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	6	対象者がいなかった。	今年度卒業生がいる。事業所との連携を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	6	外部研修にはほとんど参加できていない。受けられるなら受けたい	外部研修の情報を把握し、積極的に参加できるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	現在は行っていない。	今後考えていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	6	連携が取れておらず、協議会の把握が出来ていないため参加していない。	連携を図っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	ハグで詳しく伝えるとともに、送迎時に気になることや成長したことなどを伝えている。面談やモニタリングで聞き取りを行っている。	今後も継続する。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	送迎時や個別に懇談は行っているが、ペアレント・トレーニングのようなものは行っていない。需要はあるので計画、検討している。	需要はあるので今後計画していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に丁寧に説明している。	今後も継続する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	契約時にモニタリングを行い、詳しく聞き取っている。	今後も継続する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	支援計画の更新の際は、保護者、本人を入れ、担当者と児発管が出席して面談を行い、丁寧に説明を行っている。	今後も継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	相談があるときは、必ず時間を取り、懇談や電話等で対応をしている。	今後も継続する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4	夏祭りカフェで保護者同士の交流や兄弟も参加できる機会をつくってはいる。実施はしたが、あまり交流は見られなかった。需要はなさそうだった。開催方法も難しい。保護者同士の交流の場は設けたい。	夏祭りカフェは今後も継続する。他の交流の仕方もあると考えていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	苦情があった時は児発管に報告し、対応を協議して、迅速に対応を行っている。保護者に丁寧に説明をするようにしている。周知は出来ていないと思う。	今後も継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	毎月、お便りを出し、子どもたちの様子やデイの活動の様子を伝えている。ブログやインスタでも情報発信を行っている。	今後も継続する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報に関するものは絶対に持ち出さないようにしている。個別の活動の様子など、家族や他のものに話さないよう徹底している。	今後も継続する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	なかなか表現できない子に対しては、担当者を決め、常にかかわることで信頼関係を築いて、本人が安心して話せるようにしている。また、一対一の対応をしている。	今後も継続する。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	ブログやインスタを広く公開している。行事等には直接的な招待はしていない。	同一ビル内の事業所との連携を図っていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	緊急時対応マニュアルを作成し、お便りやハグ、ライン等で対応の周知をしている。詳しい内容は伝えられていない。する必要がある。事故防止マニュアルがあるのか分からない。	緊急時の対応の仕方を、もっと保護者と連携する体制を確立し周知徹底を図っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	1年間に2回、火災、自信の避難訓練を行っている。不審者対応など他の訓練は、ロールプレイ様式でも行った。	今後も継続する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に確認をすると共に、服薬については、面談などの時に再度確認をしている。把握できていない子もいる。	再度全員に確認をし一覧表にまとめる。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	契約時やクッキング等の前には、再度アレルギーの確認をしている。アレルギーで病院にかかっているような子はいない。そのため医師の指示書は見たことがない。医師の指示書があるか分からない。	再度全員に確認をし一覧表にまとめる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	安全計画を作成し、安全管理を徹底している。	今後も継続する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4	お便りやハグ、ライン等で対応の周知をしている。詳しい内容は伝えられていない。する必要がある。	家族との具体的な連携ができるように体制を作る。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2	口頭では、初めと終わりのミーティングで時々しているが、報告用紙を作成してまではあまりできていない。	ヒヤリハット票の記載を積極的に推進する。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	職員研修で虐待防止研修をおこなっている。 また、起こりやすい職場状況を確認し、起こらない職場づくりに努めている。	今後も継続する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	対象者はいない。	4 5